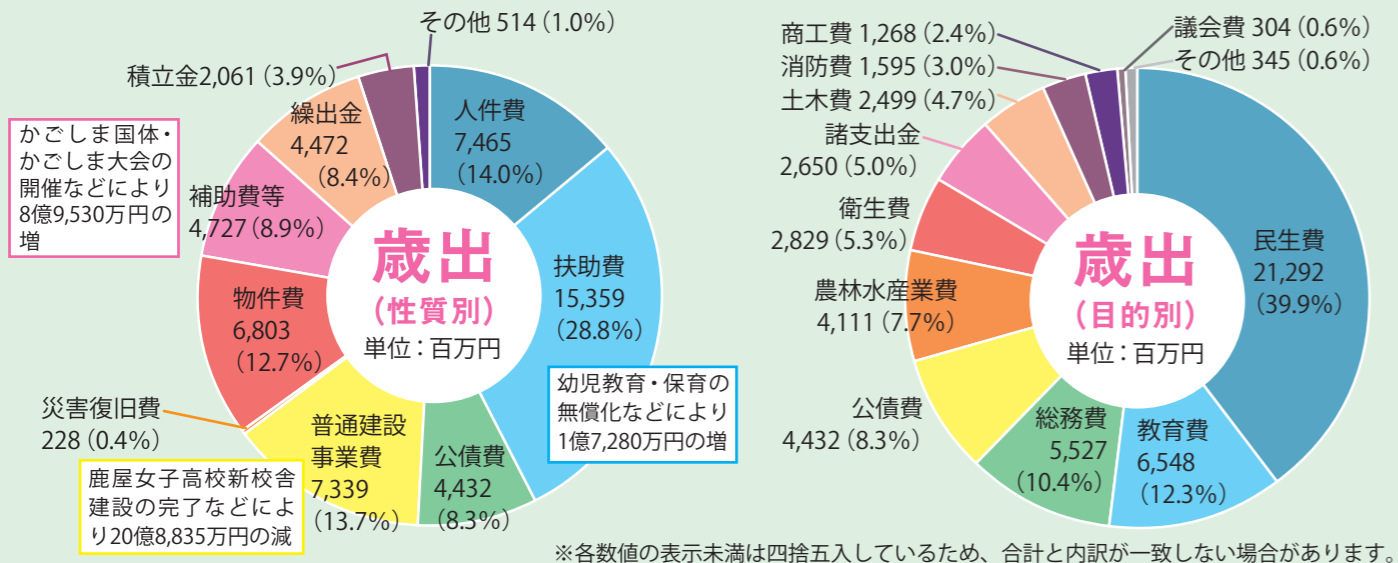


一般会計(歳出) 534億円



※各数値の表示未満は四捨五入しているため、合計と内訳が一致しない場合があります。

参考 市民1人当たりの予算 519,409円 (一般会計分) ※一般会計の歳出額を、令和2年1月31日現在の人口102,809人で割った額

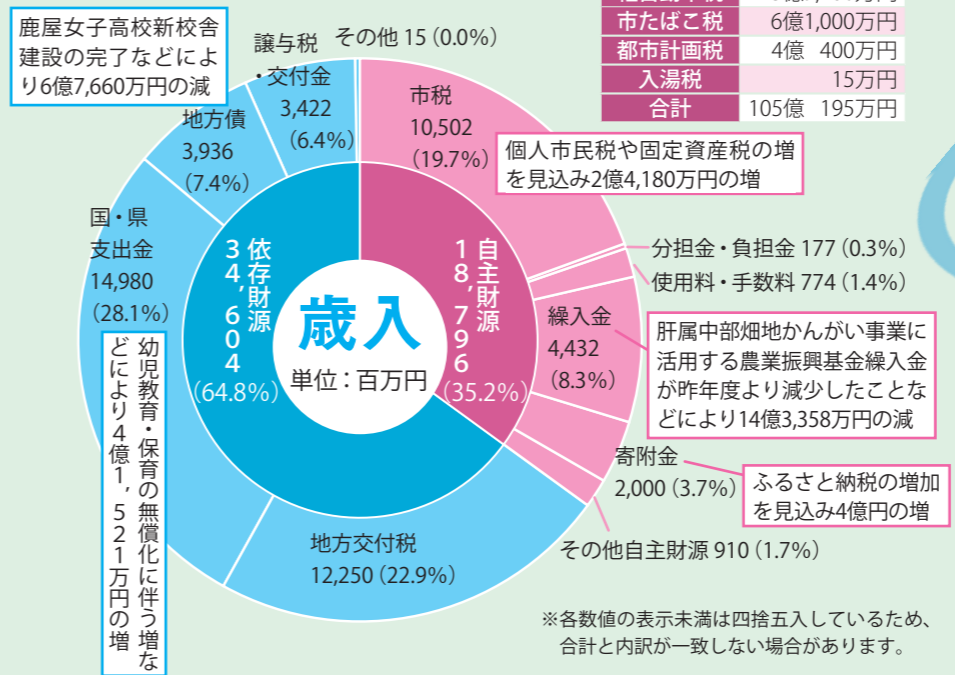
<b>民生費</b> 207,098円 (39.9%) 子ども、高齢者、障がい者の福祉増進等	<b>教育費</b> 63,692円 (12.3%) 学校の管理運営・整備等	<b>総務費</b> 53,764円 (10.3%) 自治振興、防犯対策、ふるさとPR促進等	<b>公債費</b> 43,108円 (8.3%) 借りたお金の返済	<b>農林水産業費</b> 39,984円 (7.7%) 農林・畜産・水産の振興等	<b>衛生費</b> 27,519円 (5.3%) ごみ、し尿の処理、健康管理等	<b>土木費</b> 24,309円 (4.7%) 道路、公園、市営住宅の整備推進
<b>消防費</b> 15,509円 (3.0%) 消防や救急業務等	<b>商工費</b> 12,331円 (2.4%) 商工振興、観光振興	<b>議会費</b> 2,955円 (0.6%) 議員報酬・議会運営	<b>災害復旧費</b> 2,220円 (0.4%) 災害復旧	<b>労働費</b> 659円 (0.1%) 雇用対策等	<b>諸支出金・予備費</b> 26,261円 (5.1%) 預貯金等	

地方消費税交付金の引き上げ分を活用する事業

- 子ども医療費助成事業
- 幼児教育・保育無償化事業
- 地域子ども・子育て支援事業
- 幼稚園・保育所等給付費

※消費税の税率引き上げ分に係る交付金は、地方税法第72条の116第2項の規定により、社会保障施策に要する経費に充てるとされています。

一般会計(歳入) 534億円



※各数値の表示未満は四捨五入しているため、合計と内訳が一致しない場合があります。

予算規模 令和2年度一般会計当初予算 534億円 (対前年度当初比 △1.3%)

特別会計

特別会計区分	令和2年度予算額	対前年度比
国民健康保険事業	115億2,831万9千円	2.3%
後期高齢者医療	13億7,617万2千円	3.6%
介護保険事業	114億5,543万1千円	3.2%
公共下水道事業	—	△100.0%
下水道	—	△100.0%

企業会計 (水道事業・下水道事業)

区分	水道事業	対前年度比	下水道事業	対前年度比
収益的収入	18億240万6千円	0.8%	9億9,507万9千円	—
収益的支出	16億3,186万9千円	2.8%	9億5,754万9千円	—
資本的収入	4,927万4千円	△5.7%	2億3,443万円	—
資本的支出	8億5,823万3千円	25.9%	5億9,770万5千円	—

※下水道事業は令和2年度から企業会計に含まれます。

令和2年度当初予算の概要

市税の内訳	令和2年度
市民税	44億8,100万円
固定資産税	46億1,200万円
軽自動車税	3億9,480万円
市たばこ税	6億1,000万円
都市計画税	4億400万円
入湯税	15万円
合計	105億195万円

令和2年度当初予算が、市議会3月定例会で議決されました。健全財政を念頭に置きつつ、第2次鹿屋市総合計画に掲げるまちづくりの将来像の実現に向け、総合計画の5つの基本目標に沿った施策を着実に推進する予算として編成された、予算の概要について紹介します。

将来像実現に向けて

ま ち づ く り の

ひとが元気! まちが元気! 「未来につながる健康都市かのや」

施政方針

市民の皆様と共に “ぬくもりと豊かさを 実感できる 明るい未来づくり” の実現へ



鹿屋市長 中西 茂

私が2期目の市長に就任して、2年余りが経過したところであり、皆様の御理解と御協力に深く感謝申し上げます。国においては、第2期「まち・ひと・しごと創生総合戦略」がスタートする年であり、この中において、新しい時代の流れを力にする横断的な目標として、「地域におけるSociety5.0の推進」と「地方創生SDGsの実現」を掲げていきます。Society5.0の推進に当たっては、AIやロボット等の新技術を活用した超スマート社会に対応できる取り組みを推進していくものであり、また、SDGsの実現に向けては、地球温暖化対策や食品ロスへの対応等、鹿屋市全体で積極的に取り組んでいくことが重要であると考えています。市政運営につきましては、市

民の皆様と共に、「ぬくもりと豊かさを 実感できる 明るい未来づくり」の実現に向け、第2次鹿屋市総合計画に掲げた基本目標である5つのまちづくりを着実に推進することとしており、なかでも、令和2年度においては、**〇Uターン者の促進・産業の振興**  
**〇関係・交流人口の増加促進**  
**〇スポーツによる地域活性化**  
**〇持続可能なまちづくりの推進**の4つの施策に重点的に取り組んでまいります。  
**〇Uターン者の促進・産業の振興** 人口減少対策として取り組むものであり、本市においては、高校卒業時における10代の転出と、20代から30代の女性の人口減少が顕著になっております。本年4月には、「かのや移住サポートセンター(愛称:おじやつたもんせかのや)」を開設するこ

ととしており、本市出身者をターゲットとしたUターンの促進等に取り組む、地域活力の維持や担い手確保による産業の振興を図ります。  
**〇関係・交流人口の増加促進** 観光やビジネスで訪れる方や、ふるさと納税の寄附者など、本市と関わりのある方々とのつながりを深化させ、関係・交流人口の拡大を図ってまいります。また、広域的な観光の推進を図り、教育旅行の受け入れや高速船を活用したツアーを実施するなど、今後さらに宿泊を伴う自然、食、スポーツをテーマにした誘客を図るとともに、地域の特色ある文化、イベント等を含めた観光客誘致の取り組みを進め、地域経済の活性化につなげてまいります。  
**〇スポーツによる地域活性化** 今年、日本で56年ぶりとなる東京オリンピック・パラリンピックが開催されるとともに、48年ぶりに鹿児島で「燃ゆる感動かごしま国体・かごしま大会」が開催される年です。全国から訪れる選手やスタッフ、応援に来られる方々を地域全体で、おもてなしするとともに

に、本市の魅力を発信してまいります。オリンピックや国体などを契機として、市民の方々にスポーツをする、みる、やる、という様々な形で携わっていただき、「スポーツのまちかのや」づくりを更に進めてまいります。  
**〇持続可能なまちづくりの推進** 増大する行政需要に対応するには、行財政改革を一層進める必要があるため、RPAの導入や、ICTの積極的な活用により、人口減少や高度情報化社会への対応を図ってまいります。また、安心して出産・子育てできる環境の整備や、地域の支え合い活動の充実を図るとともに、多極ネットワーク型コンパクトシティの形成や、防災・減災対策を推進する「防災専門官」を配置するなど、安全安心で市民が暮らしやすいまちづくりを進めてまいります。今後、市民に開かれた行政を目指し、市政への関心を高め、もたらうために市政報告会を開催するとともに、市職員の人材育成を図るなど「もっと身近な、もっと熱い、もっと分かりやすい」市政運営に取り組んでまいります。

※施政方針の全文は、市ホームページに掲載しています。

※令和2年3月鹿屋市議会定例会 中西茂市長施政方針の要約